

# 尾花沢すいか

## やまがたの食



### 尾花沢すいかの歴史

山形県はすいかの年間生産量が第3位、特に7、8月の出荷量が第1位と全国有数の産地であり、県内のすいか生産量の9割以上を占めているのが、北村山地域で生産される尾花沢すいかだ。

北村山でのすいか栽培は、尾花沢市の開拓農家が昭和28年ごろから仙台市場に向けて栽培し始めたと言われている。農家が、県や農協と一緒に技術開発に努めた結果、食味の良いうすいかが評判になり、栽培が広まっていったが、果樹栽培に適した気候であるものの、豪雪のため果樹が普及していないことも要因の一つである。

昭和60年代ごろまでは、地域ごとに「花笠西瓜」、「べにはな西瓜」などのブランドで販売されていたが、現在は「尾花沢すいか」のブランド名で統一し、全国に出荷している。



すいかの植え付け体験イベント



東京ミッドタウンでのイベント(平成28年)

# 主な尾花沢すいかの品種

①収穫時期 ②大きさ ③特徴

## まつり 祭りばやし777



- ① 7月中旬～8月上旬
- ② 大玉（7 kg程度）
- ③ 果肉は鮮やかな赤色。  
食感が良く糖度は高め。

## ふじひかり 富士光



- ① 8月いっぱい
- ② 大玉（8 kg程度）
- ③ 果肉は明るい紅赤色。  
シャリ感があり、糖度は  
12～13度。

## ひとりじめ7-EX



- ① 7月中旬～8月上旬
- ② 小玉（2 kg程度）
- ③ 果肉は鮮紅色。  
シャリ感があり、糖度は  
13～14度と高い。

### 産地の取り組み

山形県では、平成10年をピークに作付面積が減少に転じたため、地域一丸となった取り組みがなされ、経営拡大や若者の新規参入も増えてきている。

#### ①栽培における取組

機械による省力化や、誰にでもできる栽培技術の確立等に向けた取り組みを行っている。

#### ②出荷における取組

高品質なすいかを出荷するための厳しい品質管理や、トレーサビリティを導入する事での品質証明、出荷できる時期を長くするための作付時期の分散化などに取り組んでいる。

③商品開発における取組  
すいかを利用した商品開発に取り組んでいる。

### ●すいかを利用した商品の一例



尾花沢産すいかパウダーを練りこんだ、すいかの香りのする線香



H27「やまがたふるさと食品コンクール」の最優秀賞（県知事賞）を受賞した尾花沢すいかカレー

#### < 問い合わせ先 > ○すいか

- ・コープ村山 TEL:0237-55-6262
- ・おばね産直館はいっと TEL:0237-22-2211
- ・道の駅ねまる TEL:0237-24-3535
- ・大石田農産物直売所「つなぎ」 TEL:0237-35-3232

#### ○すいかを利用した商品

（一社）尾花沢市観光物産協会  
TEL:0237-23-4567